

日本の未来は、 ここから走り始めた。

150年前、新しい“日本の未来”を夢見た若者たちがいた。
その想いは、ある日、確かな挑戦へと変わり、やがて日本の歴史
を大きく動かす力となった。

日本初の鉄道建設の計画には、
いくつもの困難が立ち上がった。
しかし、彼らはその挑戦をあきらめなかった。

西洋の技術と日本の技術が出会い、
それぞれを結集させながら、
石を積み、線路を延ばし、
ついに新橋から横浜までの約29kmをつなぐ
“未来へ走る最初の鉄道”を完成させた。

大胆で革新的な発想のもと、
海の上に鉄道を走らせた高輪築堤は、
そのイノベーションの象徴だ。

それは日本人にとって、
「不可能を可能にする」という精神を映し出している。

たとえどんなに険しい道に見えたとしても、
誰かが最初に思い描き、一步を踏み出すことで、
未来はひらかれていく。

これは、その“最初の一步”に込められた精神を受け継ぎ、
未来を切り拓こうとする全ての人へ届けていくプロジェクト。

THE FIRST RAILWAY PROJECT、発車します。

本プロジェクトについて

新橋・横浜間の約29kmに、150年前、日本の近代化を象徴する
鉄道が開業しました。その歴史と記憶を未来へ受け継ぐプロジェクト
として、この取り組みは始まりました。鉄道開業を成し遂げたイノ
ベーションの精神を、展示などの様々な取り組みを通して紹介して
いきます。



ロゴに込めた思い

このロゴは、日本初の鉄道が生まれた「イノベーションの出発点」を
象徴しています。新橋・横浜間を結んだ線路は、未来へと続く道
そのもの。線路の先に重ねた半円は、昇る太陽と未来への光を体現。
ゴールドの色彩には、未来を照らす光を象徴的に込めました。過去の
歩みを讃えるだけでなく、挑戦が連なり、未来へ進み続ける意志を
かたちにしたロゴです。

詳細情報およびお問い合わせはこちら

<https://www.takanawagateway-city.com/firstrailway/>



日本の未来は、
ここから走り始めた。



日本初の鉄道は海の上を走った

1869(明治2)年、文明開化の中、日本政府は鉄道建設を決めました。新橋と横浜を結ぶ、日本で初めての鉄道路線です。しかし、高輪海岸周辺では土地の取得ができないなどの困難が立ちました。それを乗り越えたのが「海の上に線路を敷く」という発想です。こうして1872(明治5)年、当時の東京湾に石を積み、高輪築堤が築かれました。海の上を走る鉄道は、日本の近代化に向けた大きな一歩となったのです。



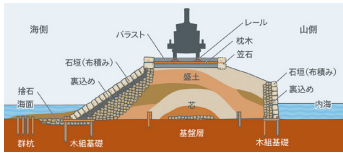
提供:鉄道博物館

新橋・横浜間を繋いだイノベーション精神

日本初の鉄道は、新橋から横浜までの約29km。そのうち本芝から品川停車場までの2.7kmが、高輪築堤の区間にあたります。築堤の建設は、イギリス人技術者エドモンド・モレルの指導のもと、日本の伝統的な技術と西洋の鉄道技術を融合させながら進められます。江戸時代から受け継がれてきた城の石垣づくりの技術によって作られた堤の上に、イギリス製のレールが敷かれました。2つの技術を組み合わせて新しいものを生み出したこの出来事は、日本のイノベーション精神を象徴しています。

まちづくりをきっかけに姿を現した高輪築堤

鉄道の発展とともに海岸の埋め立てが進み、高輪築堤はやがて土の中に埋もれていきました。この場所は、大正時代以降、長く車両基地として使われ、その存在は人々から忘れられていきます。しかし2019(平成31)年、品川駅周辺のまちづくりをきっかけに、石垣が発見されました。さらに調査を進めると、盛土や杭、線路の枕木も次々と姿を現します。それは、鉄道開業当初の姿を今に伝える遺構でした。2021(令和3)年、高輪築堤跡は国指定史跡「旧新橋停車場跡」に追加され、2028(令和10)年春に2ヶ所の現地公開を予定しています。また、信号機土台部の移築公開も計画されています。



開業期の鉄道が走った場所「高輪リンクライン」

かつて鉄道が走っていた場所の一部は広場として整備され、高輪リンクラインが生まれました。鉄道開業当時の位置にレールが埋め込まれています。レールの幅は現在の山手線等の在来線と同じものです。道に沿うように立つアートワークでは、鉄道が人々の暮らしにもたらした変化を、過去から現代、そして未来へと辿ります。AR技術によって、高輪築堤を走る蒸気機関車に出会えます。



築堤を支えた「松杭」を今に活用

高輪築堤の地盤を固めていたのが、海中に無数に打ち込まれた松杭です。それらは、石垣が崩れるのを防ぐ役割を果たしていました。発掘された松杭は、新しい姿へと生まれ変わり、今は、THE LINKPILLAR 2のGALLERYの床材や、まちの中のベンチとして活用されています。かつて鉄道を支えた存在が、開業時の記憶と共にまちの光景に溶け込みます。



写真: 富山直哉

GALLERY内の様子

築堤をかたちづかった「築石」の活用

高輪築堤の記録保存調査で取り出された石は、今もまちの中で息づいています。当時、線路の陸側は垂直に石を積み、海側は波の力を和らげるために緩やかな角度で石を組んでいました。この二つの積み方は、高輪リンクラインの植栽まわりにも忠実に再現され、鉄道開業を実現した石が、まちを訪れる人の足元で静かにその歴史を語り続けています。



高輪リンクラインの築石

THE FIRST RAILWAY 展 —はじまりの鉄道—

THE LINK PILLAR 2のGALLERYは、高輪築堤にかかっていた「第7橋梁」の遺構の目の前に位置しています。ここでは、『THE FIRST RAILWAY 展 —はじまりの鉄道—』を開催します。鉄道開業の歴史や高輪築堤の発掘調査の紹介、文化財とまちづくりの両立に向けた取り組みについてのインタビュー映像などを通して、鉄道開業から高輪築堤の保存・公開へと至るまでの歩みを知ることができます。遺構は現在、公開に向けた準備が進められています。

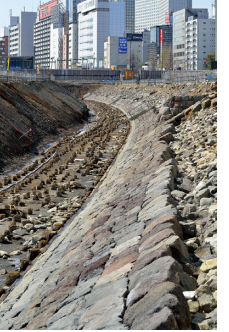
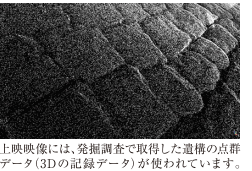
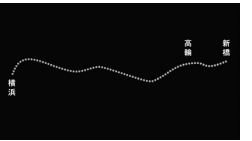


写真: 富山直哉

〈会場〉THE LINKPILLAR 2 | 1F GALLERY(下記マップ内C)
 〈開廊時間〉10:00~19:00(最終入場 18:45) 〈休館日〉ビル休館日に準じる
 〈入場料〉無料

MoN Takanawa内での高輪築堤展示

MoN Takanawa: The Museum of Narrativesでは、高輪築堤を描いたムービーを上映しています。発掘された高輪築堤の3Dデータをもとに制作された映像は、かつてこの地を走った鉄道が未来へと走り続ける姿を美しく表現します。また、地下1階の「MoNライブラリー」には、高輪築堤や鉄道の歴史に関する本を集めた小さな図書スペースが設置されています。映像で物語に触れ、本を通して知識を深めることができる場所です。



上映映像には、発掘調査で取得した遺構の点群データ(3Dの記録データ)が使われています。

〈会場〉MoN Takanawa: The Museum of Narratives B1F Box1000 ホワイエ部分など
 〈開館時間〉10:00~21:00 〈休館日〉毎月第2火曜日
 〈入場料〉無料

※館内で実施するプログラムにより、営業時間・休館日が変動する場合がございます。
 ※Box1000ホワイエ部分は、Box1000内のプログラム開催時間により、入場可能時間が変化します。
 詳しくはMoN Takanawa公式HPをご覧ください。※2026年度、MoN Takanawa内にて企画展を予定。



A 高輪築堤跡(公園部):2028年春公開予定

B 高輪築堤跡(第7橋梁部):2028年春公開予定

C GALLERY

D 高輪リンクライン

E 高輪築堤跡(信号機土台部):公開計画中

